

# うたって学ぶしまくとうば

～rainとめぐる沖縄のうた～

## 耳切坊主編

年 組 番 氏名

### イントロコーナー 『耳切坊主（みみちりぼうじ）』ってどんな歌？

『耳切坊主（みみちりぼうじ）』は、沖縄で昔から歌われてきた有名な童謡（どうよう）のひとつ。少しだけこわ~い歌ですが、歌詞の中には、しまくとうばがいくつも使われていて、言葉の音や言いまわしに特徴があります。このワークでは、沖縄の童謡をとおして、しまくとうばの意味や音を楽しく学んでいきましょう！



#### 学習の目標



- うたの内容を知ろう：『耳切坊主』がどんな伝説・ストーリーか知ろう。
- しまくとうばにふれよう：うたに出てくるしまくとうばの意味や音の感じを知ろう。
- 自分の言葉で伝えよう：学んだことや気づいたことを、文章にまとめて伝えよう。

### 1. うたの内容を知ろう 『耳切坊主（みみちりぼうじ）』ってどんなストーリー？

Q1. 『耳切坊主』の伝説には、どんな人が出てきたかな？



Q2. 『耳切坊主』は、どんな物語（ストーリー）かな？  
お話の中でおこったことを、かんたんに3つの順番でまとめてみよう。

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_

くるかにざーすい  
Q3. 黒金座主は、実は「耳を切られた側」だったと知って、どう思いましたか？

## うたって学ぶしまくとうば【耳切坊主編】

教員用解説資料

※耳切坊主の解説動画内に、少しだけ怖い表現がございます。事前に動画を視聴し、活用の判断をお願いします。

#### 【留意点】

##### ◆教材の特性

- 少しだけ「怖い話」ですが、昔の人が子どもを守るために作った歌という文脈で扱う
- 子守唄=寝かしつけ歌ではなく、「泣き止ませる歌」であることを理解

##### ◆重要な文化的背景

- 「うふいなぐ」の風習：呪いから男の子を守るため、女の子として扱った命を守る知恵
- 時系列の理解：①悪事→②囲碁勝負敗北→③耳を切られる→④呪いをかける→⑤歌が生まれる
- 「耳を切られた側=黒金座主」：加害者/被害者の二面性に気づかせる

##### ◆しまくとうば学習のポイント

- 音を体感させることを最優先：意味理解より先に、声に出て読む・歌う時間を確保
- 「正解」を求めるすぎない：多様な感じ方を認め、「なぜそう思ったか」の言語化を重視
- 語句解説は段階的に：「ぐすぐす」（物を切る音）  
「ヘイヨー」（囁き、元は「おい、なあ」）など

##### ◆配慮が必要な場面

- 恐怖心が強い児童：聞くだけでもOKと選択肢を提示
- 発表が苦手な児童：ペアでの発表、メモ見ながらOKなど段階的支援

Q1. 『耳切坊主』の伝説には、どんな人が出てきたかな？

【解答例】黒金座主（くるかにざーすい）という僧侶、北谷王子、王、北谷王子の子孫（子どもたち）  
【指導のポイント】・黒金座主と北谷王子の2人が中心人物であることを押さえる。  
・黒金座主=耳切坊主であることを確認する。

Q2. お話の中でおこったことを、かんたんに3つの順番でまとめてみよう。

【解答例】① 悪い僧侶・黒金座主が、北谷王子との囲碁勝負に負けて両耳を切られた。  
② 黒金座主は死に際に、北谷王子の男の子孫が長生きできないように呪いをかけた。  
③呪いを避けるために、この歌で「泣くな」と子どもをあやすようになった。  
【ポイント】・時系列：①悪事→②囲碁勝負で敗北・耳を切られる→③呪いをかける→④歌が生まれる  
・3つの要素に分けることで、因果関係を整理させる。流れがつかめていればOK。

Q3. 黒金座主は、実は「耳を切られた側」だったと知って、どう思いましたか？（自由記述）

【解答例】・最初は黒金座主が悪者だと思っていたけど、耳を切られたのはかわいそうだと思った。  
・悪いことをしたから耳を切られたのは仕方ないけど、呪いをかけるのはやりすぎだと思った。  
【ポイント】・「悪いことをした→罰を受けた→さらに呪いをかけた」という連鎖に注目させる。  
・多様な意見を認め、「善悪は単純ではない」ことを考えるきっかけにする。  
・感情の共有時間を設け、クラス全体で多様な視点を交流させるとよい。

